

第3回 北海道大学 映像・現代文化論学会大会 — プログラム —

◎日程 2019年11月9日(土)10時~17時30分

◎会場 北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 W409 会議室

◎主催 北海道大学大学院文学研究院 映像・現代文化論研究室

・開会の辞

総合司会 水溜真由美
中村 三春

○研究発表

宮澤賢治「春と修羅」論

——光、歩み及び詩の構造の関係性を中心に——

博士後期課程 クジェル・イジー
司会 博士後期課程 中村 建

ジョン・カサヴェテス『アメリカの影』における演出理論と身体表現

博士後期課程 堅田 諒
司会 博士後期課程 黄 也

(昼食休憩)

タル・ベーラ監督の映画空間について

——初期の映像作品を中心に——

博士後期課程 モルナール・レヴェンテ
司会 修士課程 崔 文婕

ゲームサウンドの地域コンテンツとしての可能性

——『ポケットモンスター 赤・緑』を中心に——

博士後期課程 杉本 圭吾
司会 博士後期課程 酒井駿太郎

言葉を撮る

——王兵『鳳鳴—中国の記憶』における証言とフィクションについて——

博士後期課程 朱 偉
司会 博士後期課程 キョウ金浪

○講演

90年代スピルバーグと「リアル」の変容

——『ジュラシック・パーク』論——

講師紹介 小川佐和子

早稲田大学教授 藤井 仁子

・閉会の辞

応 雄

(肩書きの記載のないものは、映像・現代文化論研究室教員)